

#### 4 リハビリテーションセンター

5月の新棟移転において、リハビリテーション部門はすべての移転が完了しました。新棟2階、会議室の隣に位置し、総床面積は約400㎡の施設になりました。窓が大きく明るい開放感のある機能訓練室です。訓練室から直接出られる屋外テラスは、気分転換には最適なスペースとなっています。

スタッフは前年と変わらず、内田室長のもと理学療法士4名、作業療法士1名、言語聴覚士2名、心理士1名の体制で実施しました。

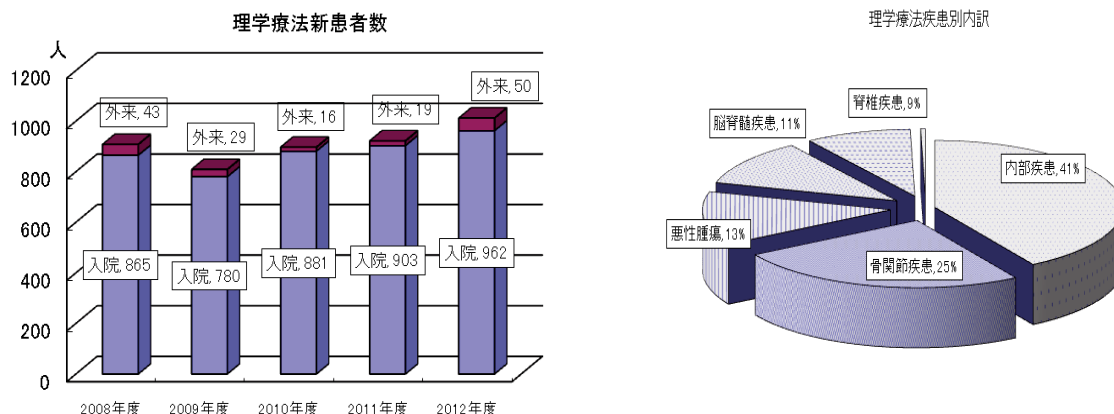
疾患別リハビリテーションの実施件数は、新棟移転に伴うベッド数の減少による影響か、約10%の減少となりました。しかし、評価・指導料算定の充実を図り、診療報酬は4%減におさえることができました。

	2012年度	2011年度
運動器リハビリⅠ	5,618件	7,125件
脳血管リハビリⅡ	2,588	2,892
廃用症候群リハビリⅡ	9,625	11,404
呼吸器リハビリⅠ	76	18
<b>合計</b>	<b>17,907件</b>	<b>21,439件</b>
早期加算14日	2,711件	0件
早期加算30日	12,400	12,710
評価/指導	1,336	286

(文責 リハビリテーションセンター担当係長 植松 豊子)

#### <理学療法>

2012年度、理学療法の新規患者数は、1012名(入院962名、外来50名)でした。疾患別では、内部疾患41%(422名)、骨関節疾患25%(258名)、悪性腫瘍13%(132名)、脳脊髄疾患11%(114名)、脊椎疾患9%(93名)、その他1%(4名)です。



(文責 リハビリテーションセンター主任 山口 砂織)

<作業療法>

2012年度作業療法の新規処方数は入院 182 件、外来 34 件、合計 216 件でした。リハビリテーションの実施数は入院 1396 件(67%)、外来 680 件(33%)で合計 2076 件となりました。

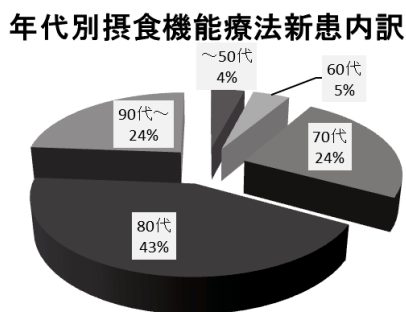
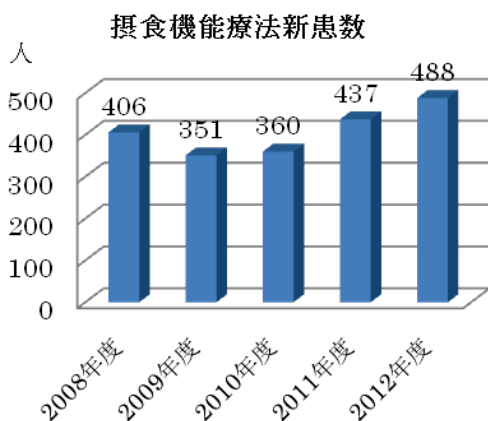
総実施数 2076 件の疾患別リハビリテーションの内訳は、脳血管疾患リハビリテーション 347 件(17%)、脳血管リハビリテーション(廃用症候群)650 件(31%)、運動器リハビリテーション 925 件(45%)、その他 154 件(7%)でした。

(文責 リハビリテーションセンター 井上 望美)

<言語・摂食機能療法>

今年度の新患数は 505 名で、内訳は失語症 7 名、構音障害 10 名、嚥下障害 488 名でした。今年度も嚥下障害の新患が更に増加し、各診療科から依頼がありました。例年と同様高齢者の割合が高い状況でした。嚥下の検査である VE (嚥下内視鏡検査) は 298 件、VF (嚥下造影検査) は 32 件、耳鼻科の各先生方のご協力のもと施行しました。新患数は増加しているものの嚥下検査をすべての患者に行うには限界がある為、ST によるスクリーニング検査のみでリハビリを行う患者が多くなりました。今後は VE・VF をより正確かつ効率的に進める必要があると思われます。また、摂食機能療法は 2 名の ST のみで行うには限界があり、他職種との連携が重要であるため、より協力体制を強化していきたいと考えています。

外来での言語グループ訓練は引き続き月に 1～2 回行い、そのうち年 6 回は園芸療法の毛利ユカ先生にご指導いただきました。



(文責 リハビリテーションセンター主任 谷内田 綾)

<心理検査・心理面接>

各診療科から心理への外来入院別の受付状況は、図1から内科 228 件(外来 76 件、入院 152 件)、呼吸器科 5 件(外来 1 件、入院 4 件)、神経内科 14 件(外来 14 件)、循環器科 11 件(外来 6 件、入院 5 件)、精神科 310 件(外来 296 件、入院 14 件)、整形外科 8 件(外来 1 件、入院 7 件)、外科 50 件(外来 50 件)、泌尿器科 1 件(外来 1 件)、脳外科 3 件(入院 3 件)、緩和ケア科 159 件(外来 7 件、入院 152 件)です。

年代別では図2から40歳代から80歳代が多く、性別では20歳代以外は女性が多いです。

実施内容は図3から、心理検査 178 件(23%)、心理療法 396 件(50%)、家族療法 33 件(4%)、糖尿病グループ 18 件(2%)、慢性腎臓病グループ 7 件(1%)、電話相談 1 件です。今年の2月から精神科リエゾンチームが開始され、現在のところ 156 件(20%)です。心理検査を除く個人と集団のカウンセリングは約8割です。

心理検査は、図4から認知症の神経心理学的検査がほとんどです。

